

中学校教科等研修講座(道徳)

教科等指導員 荒牧中学校 教諭 兼山 美由紀

担当指導主事：村上 大介

キーワード：小中連携 道徳の教科化 評価

1 実施概要

実施月日	司会・助言	場所・形態	演題(またはテーマ)
11月15日(木)	荒牧中学校 兼山 美由紀 教諭	総合教育センター 2階講座室 ワークショップ	「道徳科の記述式評価について」
1月31日(木)	荒牧中学校 兼山 美由紀 教諭	総合教育センター 2階研修室 ワークショップ	「道徳科の記述式評価について」

2 主な内容

(1) 記述式評価について

① 評価の資料

ノート・ワークシートなどの文章だけでなく授業中の発言や役割演技などでもよい

② 評価の条件

ア 必ず道徳授業での学びの評価であること

(道徳授業外での様子や言動等はいれない)

イ 内面の評価であって行動の評価ではない

ウ 個人内評価であって到達度評価ではない

(一定の基準や他の生徒との比較ではなく、その生徒自身の成長を評価する)

③ 評価の観点について ～児童・生徒の成長をとらえる～

ア 一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展している点

イ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めたり、人間としての生き方について考えを深めている点

(2) ワークショップ

資料をもとに記述式評価文を作成する

ア 個人思考

イ グループで作成

ウ 班で作成した評価を交流

エ 新たに気づいたことを交流

オ 感想とまとめ

(3) 参考資料配布

マンガ「どうする徳田先生」シリーズ (動画も紹介)



3 成果と課題

(1) 成果

① 小学校教員の参加があり、すでに小学校で取り組まれている記述式評価や研修について話を聞くことができた。

- ② 参加者が協力して記述式評価を作成し、交流することで「多面的・多角的な」生徒の見方や評価文の書き方を見つけることができた。
 - ③ 生徒一人ひとりの成長をとらえ、それぞれの生徒の成長にあった記述式評価をしようとする意欲を持ってもらうことができた。
 - ④ 新任教員も、他の研修で学んだこともふまえ、協力してグループで記述式評価を作成することができた。
 - ⑤ 2回とも御参加下さった先生の中に、1回目の講座で得た問題意識を持って校内研修に取り組みました方があり、その成果を2回目の講座で報告いただいた。
- (2) 今後の課題
- ① 生徒一人ひとりに合った評価の大切さを感じてもらうことはできたが、やはり難しいことではあるので、各担任が少しでも書きやすくなるよう、評価文例や文章表現の例を提示するなど道徳担当教師の方でサポートしていく必要がある。
 - ② 学期ごとの評価か年間を通じての評価かによって評価文の書き方が変わってくる。年間であれば、1年を通じての総合的な評価をまず書いてから、具体例のような内容を書いた方が良いのではないか。その場合、担任は、年間を通じての評価をとらえ、表現する力をつける必要がある。(年間を通じて評価をする場合、いきなり年度末に評価文を作成するのは大変なので、最初の年度は、学期ごとに総合的な評価を練習するなどの研修を行う)
 - ④ 小学校では今年度からすでに記述式評価が行われており、来年度からは中学校でも記述式評価を行うので、今後は小中の評価の交流を行うこともできると考える。